

平成20年度名古屋大学入学試験を実施

平成20年度名古屋大学入学試験（一般選抜の個別学力検査）が、2月25日（月）、26日（火）の2日間、東山地区・河合塾千種校・大幸地区の3地区の試験場で行われ、合計1,718名の募集人員に対し、4,866名が受験しました。

試験当日は、豊田講堂前庭やグリーンベルト周辺に受験生が朝早くから集まり、引率教師からの試験前の注意事項



試験会場の様子

に耳を傾け本番に備えていました。また、受験票を片手に緊張した面持ちで来学した受験生を案内する職員や学生の姿がキャンパスのあちこちで見られました。

1日目は、午前9時30分から外国語の試験が9学部において一斉に始まり、午後には、理科、地理歴史、小論文の試験が行われました。また、2日目には午前9時30分から数学の試験が、午後2時から国語の試験が行われ、両日とも、平野総長、高橋事務局長が各試験場を訪れ、試験場主任や教職員を激励しました。各学部の試験は2日目の午後3時45分にすべて終了し、受験生はお互いに試験問題について話し合いながら、家路につきました。

また、合格発表は、3月8日（土）正午から豊田講堂において行われました。

災害対策室が新潟県知事から感謝状を贈呈される

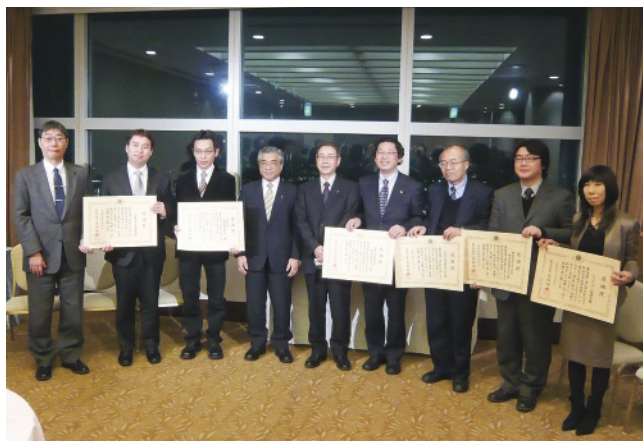
2月4日（月）、泉田裕彦新潟県知事から災害対策室に対して感謝状が贈呈されました。これは、2007年7月16日に発生した新潟県中越沖地震について、新潟県災害対策本部が行ってきた活動への災害対策室の支援に対するものです。

災害対策室では、新潟県中越沖地震の発生当日から新潟県庁に入り、専門的知見から災害対応支援を行ってきまし

た。特に、発生翌日の新潟県災害対策本部会議において、知事からの「災害対応の状況をわかりやすく地図化できないか」との要請に応じるかたちで、発生翌々日に産官学民のメンバーからなる「地図作成班」を新潟県災害対策本部内に結成しました。

地図作成班は、日々刻々と変わる災害対応に不可欠な「通水復旧図」「災害状況図」「仮設住宅位置図」などをオンデマンド形式で作成・提供しました。8月10日の活動終了までに約200件の地図を作成し、地域ニーズを反映した災害対応の実現に大きく貢献しました。

この活動は「平成19年新潟県中越沖地震復旧・復興 GIS プロジェクト」という、GIS（地理情報システム）を利用した効果的な災害対応の仕組みを考える新たな「知の創造」プロジェクトに発展しており、災害対策室は、京都大学防災研究所、京都大学生存基盤科学研究ユニット、新潟大学災害復興科学センター、横浜国立大学安心・安全の科学研究教育センターのメンバーとともに、このプロジェクトも支援しています。



感謝状贈呈式にて（左から2番目が木村災害対策室員）